

伏見城跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一七―三

伏見城跡

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

伏見城跡

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、JR奈良線の複線化工事に伴う伏見城跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

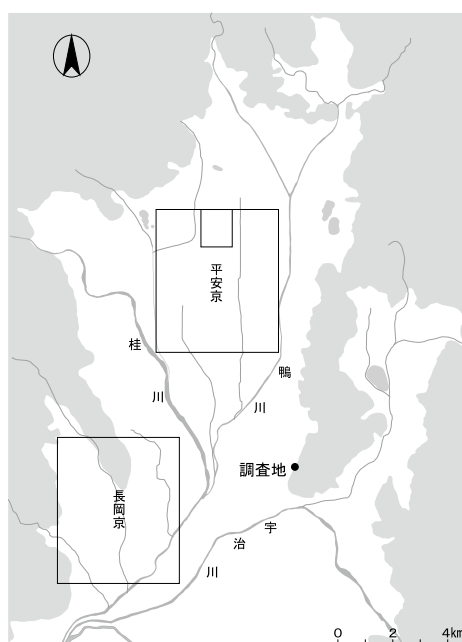
平成29年9月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 伏見城跡（京都市番号 16 F 293）
- 2 調査所在地 京都市伏見区桃山町正宗15の3
- 3 委 託 者 清水建設株式会社 関西支店 専務執行役員 支店長 池田耕二
- 4 調査期間 2017年6月1日～2017年6月28日
- 5 調査面積 250㎡
- 6 調査担当者 中谷正和
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「丹波橋」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 中谷正和
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。
- 15 協力者 調査にあたっては、辻 康男氏・辻本裕也氏よりご教示をいただいた。記して謝意を表します。



(調査地点図)

目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査経過	2
2. 位置と環境	4
(1) 調査地の環境	4
(2) 既往の調査	4
3. 遺 構	7
(1) 基本層序	7
(2) 遺 構	7
4. 遺 物	11
(1) 遺物の概要	11
(2) 土器類	11
(3) 瓦 類	11
(4) 土製品	11
5. 土塁構築土の硬度試験	13
(1) 各測線の測定結果	13
(2) 構築土分類別の結果	16
(3) 小 結	16
6. ま と め	17
(1) 土塁の構築について	17
(2) 土塁の規模について	18

図 版 目 次

図版 1	遺構	調査区平面図、土塁 1 構築単位図・構築土分類別分布図 (1 : 300)
図版 2	遺構	調査区断面オルソ画像・断面図 1 (1 : 100)
図版 3	遺構	調査区断面オルソ画像・断面図 2 (1 : 100)
図版 4	遺構	調査区断面オルソ画像・断面図 3 (1 : 100)
図版 5	遺構	調査区断面層名 (図版 2 ~ 4 に対応)
図版 6	遺構	1 1 区全景 (北から)
		2 2 区全景 (南から)
		3 2 区全景 (南西から)

挿 図 目 次

図 1	調査位置図 (1 : 2,500)	1
図 2	調査区配置図 (1 : 500)	2
図 3	調査前全景 (南から)	3
図 4	調査風景 (南から)	3
図 5	周辺の調査地点 (1 : 5,000)	5
図 6	基本層序模式柱状図 (1 : 50)	7
図 7	土坑 2・3 実測図 (1 : 40)	10
図 8	出土遺物拓影・実測図 (1 : 4)	12
図 9	出土遺物写真	12
図 10	土塁構築土硬度測定結果 (上段 1 : 60、下段 1 : 300)	14
図 11	土塁 1 復元平面図 (1 : 1,000)	19

表 目 次

表 1	周辺の調査一覧表	5
表 2	遺構概要表	8
表 3	構築土分類表	8
表 4	遺物概要表	11
表 5	測線別統計量	13
表 6	測点成果一覧表	15
表 7	構築土分類別の結果	16

付 表 目 次

付表 1	出土土器観察表	20
付表 2	出土瓦観察表	20
付表 3	出土土製品観察表	20

伏見城跡

1. 調査経過

(1) 調査に至る経緯 (図1)

調査地は、京都市伏見区桃山町正宗15の3に位置する。『京都市遺跡地図』によると伏見城跡にあたり¹⁾、これまでの調査から惣構の北辺土塁にあたると推定されている²⁾。当該地は、JR奈良線の線路が東西方向の土塁を分断する箇所であり、線路東側に土塁断面が露呈している。

JR奈良線の複線化工事に伴い、当該地の土塁の一部を削平することが明らかとなったため、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）から発掘調査の指導が西日本旅客鉄道株式会社になされた。調査は、西日本旅客鉄道株式会社からJR奈良線複線化事業を請け負った清水建設株式会社関西支店の委託を受け、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が実施した。

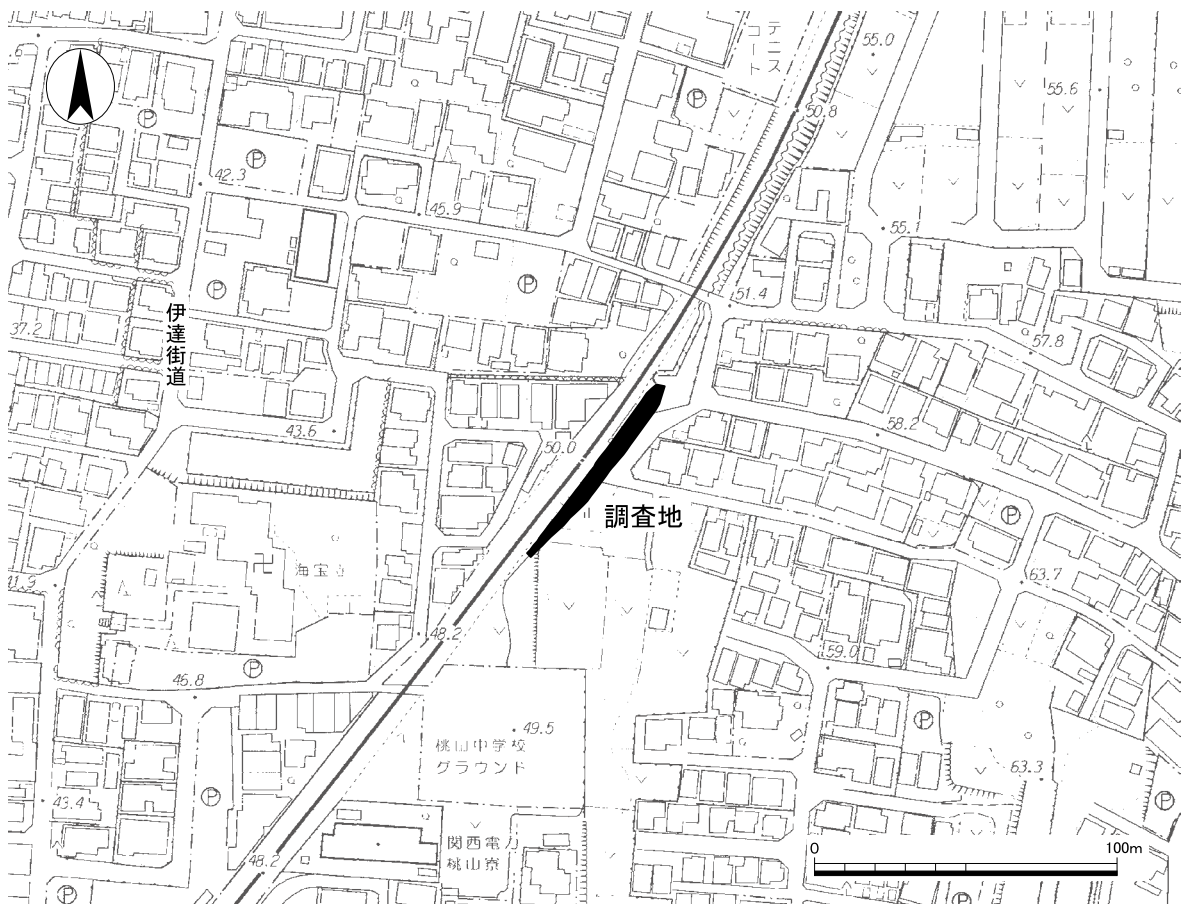


図1 調査位置図 (1 : 2,500)

(2) 調査経過 (図2～4)

文化財保護課の指導により、JR奈良線敷地内の線路東側に、南北長約72m、幅2～5m、面積約250㎡の調査区を設定した。調査区内のコンクリート擁壁を挟んで北側を1区、南側を2区とした。2017年6月1日から、人力で表土掘削を開始した。調査対象地が、高低差約6m、傾斜角が45度に近い斜面地であることから、安定した状態で掘削作業などを行うのは困難であった。このため、斜面地に単管パイプを格子状に組んで仮設の足場を組み、作業の進捗に合わせて順次足場を解体しながら掘削を進めた。作業員は安全帯を着用して掘削・残土運搬を行った。検出した土塁は断面の記録及び観察を行い、オルソ測量を実施した。調査中は適宜、文化財保護課の臨検を受けた。平成29年6月28日にすべての調査を終了し、撤収した。

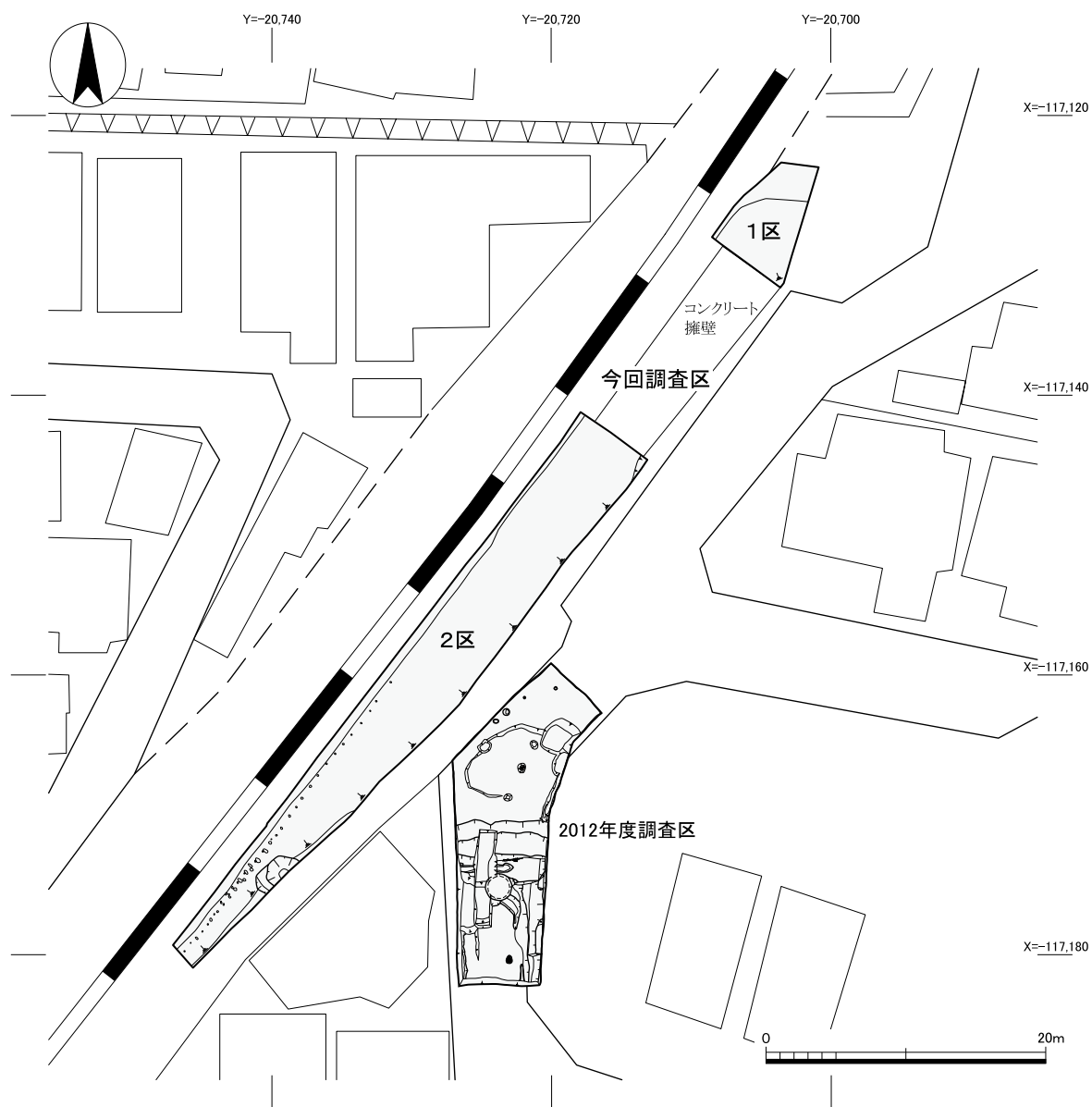


図2 調査区配置図 (1 : 500)



図3 調査前全景（南から）



図4 調査風景（南から）

註

- 1) 『京都市遺跡地図台帳【第8版】』京都市文化市民局 2007年
- 2) 山田邦和「伏見城とその城下町の復元」『豊臣秀吉と京都－聚楽第・御土居と伏見城－』文理閣 2001年

2. 位置と環境

(1) 調査地の環境

調査地は、大阪層群と低位段丘堆積物の境に位置し、低位段丘面と中位段丘面の地形境界にあたる。周辺の地形は、境界付近に位置する活断層（桃山断層）によって、西側に大きく傾斜している¹⁾。

伏見城は、文禄元年（1592）に太閤となった豊臣秀吉が、指月の丘に隠居所を構えたことから始まる。文禄3年（1594）に本格的な城郭としての工事が始まり、太閤の居城として整備された。文禄5年（1596）の大地震により城が大きな被害を受けたことから、主要な曲輪を約500m北東の木幡山山頂に移して、すぐに再建に着手された。城下町も再整備され、それを囲む惣構と呼ばれる総延長約7.5kmに及ぶ土塁と堀が造られた。城下町には、武家屋敷が配置されるとともに、商工業者の居住域も設けられた。

慶長5年（1600）、関ヶ原の戦いの前哨戦として、徳川家康家臣の鳥居元忠ら東軍側1800人が守備する伏見城に、宇喜多秀家ら西軍側約4万人が攻め寄せ、城は落城、焼失した。

慶長6年（1601）、徳川家康は伏見城の再建に着手するが、木幡山北西部の曲輪や堀は放棄している。そして、慶長8年（1603）に徳川家康、慶長10年（1605）には徳川秀忠が將軍宣下を受けると、伏見城は初期の徳川幕府における公儀の拠点として機能したが、元和9年（1623）の徳川家光の將軍宣下後、廃城となった。

今回の調査地点は、伏見城惣構の北辺土塁にあたる。現在、土塁の姿を見ることができる地点は、栄春寺境内とJR奈良線の東側に位置する今回の調査対象地の2箇所である。

(2) 既往の調査（図5、表1）

調査地周辺では、伏見城と、その城下町に関係する遺構が多数確認されている。

周辺の各調査地点では、平坦面を造成するための大規模な整地が確認されており、調査5～8では礎石建物が確認された。また、伊達街道（調査7）や上板橋通（調査5）沿いでは石垣と石組の溝が検出された。絵図や文献史料などから、一帯には大名屋敷が展開していたと考えられており、石垣は屋敷地を画するものと推定されている。

調査8では、伏見城惣構の北辺土塁の南端部と、その内溝が検出された。土塁の調査では、地山整地後に整地土を施すこと、裾部に土手状の高まりを造りながら、これを仮の土留めとして構築土を積み上げる状況が明らかにされた。また、屋敷地のひな壇造成と同時に土塁を構築していることが確認された。

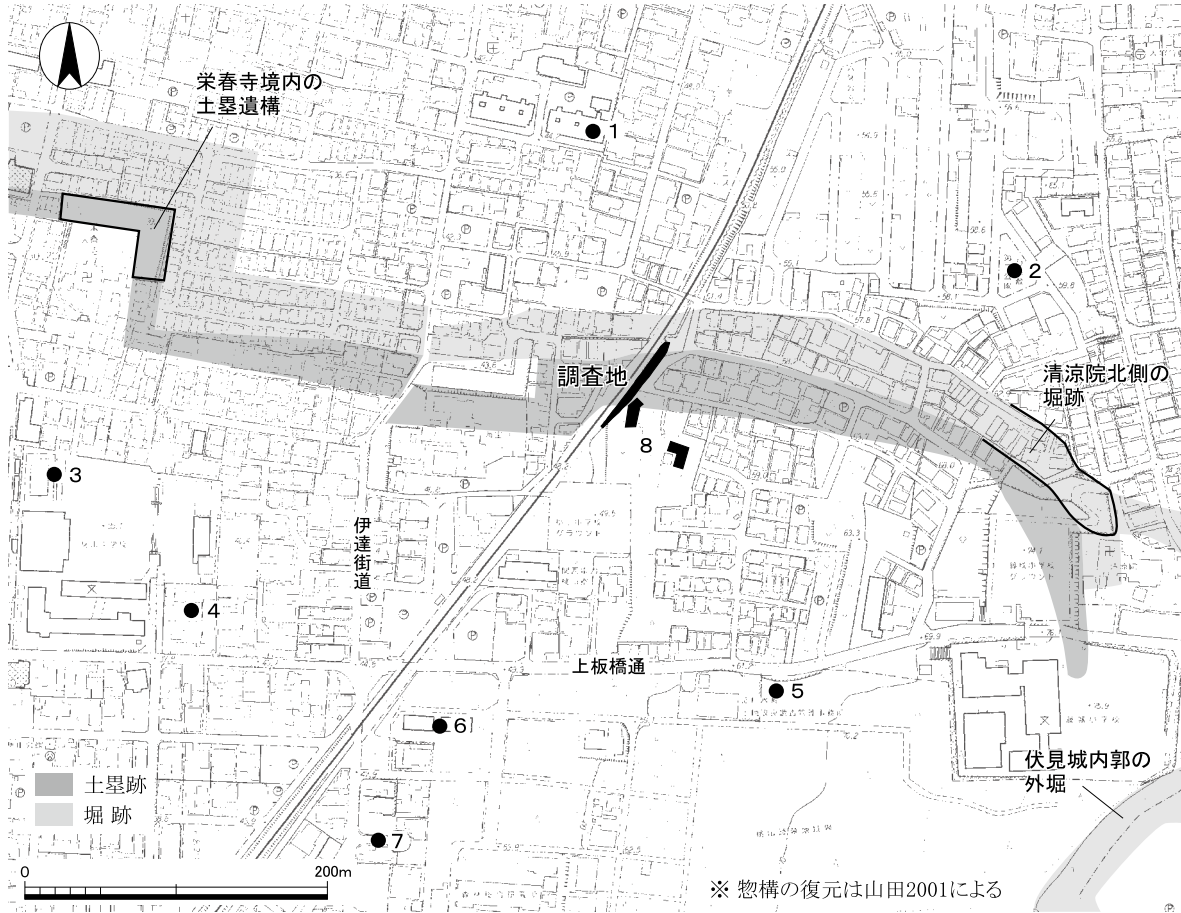


図5 周辺の調査地点 (1 : 5,000)

表1 周辺の調査一覧表

No.	所在地	調査方法	調査年月日	検出遺構	出土遺物	文献
1	深草内膳町10-1	試掘	1995.10.23, 11.10~11	桃山時代の南北溝・南北石列など。	桃山時代の土師器、施釉陶器、巴文軒丸瓦など。	第2章註2
2	深草大亀谷・六鉢町・万帖敷町	発掘	2002.5.8 ~7.30	江戸時代前期の路面・建物・礎石・水溜・土坑、後期の路面・建物・礎石・溝・水溜・土坑など。	江戸時代の土師器・施釉陶器・焼締陶器・瓦器など。	第2章註3
3	桃山水野左近東町19	試掘	2004.11.1 ~5	桃山時代とみられる整地層。	桃山時代の瓦類、江戸時代の陶磁器。	第2章註4
4	桃山水野左近東町19	立会	1982.2.1	表土下0.1~0.4mで桃山時代の遺構面。		第2章註5
5	桃山町永井久太郎56	発掘	1986.12.1 ~1987.1.16	桃山時代から江戸時代の礎石建物・井戸・溝・柱穴・土坑など。	古墳時代の埴輪・須恵器、桃山時代から江戸時代の土師器・陶器・瓦類・鉄製品。	第2章註6
6	桃山町永井久太郎	発掘	1978.10.5 ~12.5	古墳の埴丘、桃山時代の井戸・瓦溜、江戸時代の礎石建物・墓坑など。	古墳時代の土師器・須恵器・埴輪、桃山時代の金箔瓦、江戸時代の土師器・銭貨・骨片など。	第2章註7
7	桃山町永井久太郎59-2	発掘	1988.11.21 ~12.10	桃山時代の南北石組溝・築地・犬走り・路面・礎石建物など。	桃山時代の土師器・陶器・炭化した米・鉄製品・弾丸など。	第2章註8
8	桃山正宗15-1他	発掘	2012.11.12 ~12.15	桃山時代の土塁・建物・土坑・井戸など。	桃山時代の土師器・陶器・瓦類など。	第2章註9

参考文献

- 植村善博「変異地形と地下構造からみた京都盆地の活断層」『京都歴史災害研究』第2号 京都歴史災害研究会 2004年
- 中井 均「伏見城と豊臣・徳川初期の城郭構造」『ヒストリア』第222号 大阪歴史学会 2010年
- 中居和志「伏見城跡」『京都府中世城館跡調査報告書』第3冊（山城編1） 京都府教育委員会 2014年
- 丸川義広「伏見城の考古学的調査」『ヒストリア』第222号 大阪歴史学会 2010年
- 森島康雄「伏見城城下町の考古学的調査」『ヒストリア』第222号 大阪歴史学会 2010年
- 山田邦和「伏見城とその城下町の復元」『豊臣秀吉と京都－聚楽第・御土居と伏見城－』文理閣 2001年
- 馬瀬智光『京の城－洛中洛外の城郭－』京都市文化財ブックス第20集 京都市文化市民局文化部文化財保護課 2006年

註

- 1) 周辺地形や土壌の特徴について、辻 康男氏（パリオ・サーヴェイ株式会社）からご教示をいただいた。
- 2) 梶川敏夫「伏見城跡 No.69」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成7年度』京都市民文化局 1996年
- 3) 南 孝雄『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002－11 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 4) モンベティ恭代「伏見城跡2」『平成16年度 財団法人京都市埋蔵文化財研究所年報』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2006年
- 5) 『京都市内遺跡試掘、立会調査概報 昭和56年度』京都市文化観光局・財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1982年
- 6) 平方幸雄「40 伏見城」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1989年
- 7) 網 伸也「78 伏見城3」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 8) 久世康博「52 伏見城1」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 9) モンベティ恭代『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012－17 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図6)

基本層序は、現地表面より厚さ0.1～0.6mの表土・耕作土層以下、土塁1の構築土、整地層B、地山となる。土塁1南裾より南側では、表土・耕作土層、安土桃山時代の整地層A、地山となる。

(2) 遺 構 (図版1～6、図7、表2・3)

1) 安土桃山時代

土塁1 (図版1～5、表3) 伏見城惣構の北辺土塁 (土塁1) 断面を検出した。今回調査の断面は、ほぼ東西方向に伸びる土塁に対して、北へ55～60° 傾いた断面となっている。検出面における土塁1の南北長は約58m (コンクリート擁壁を含む)、土塁を構成する構築土・整地層Bの厚さは最大で約4.0mを測る。

土塁1は、地山直上に構築されている。地山には土壌化層が認められず、上面は緩やかな南下り斜面を呈している。

2区では、地山上面で厚さ約0.25mの整地層B (196・197層)を確認した。北端部が1・2区間

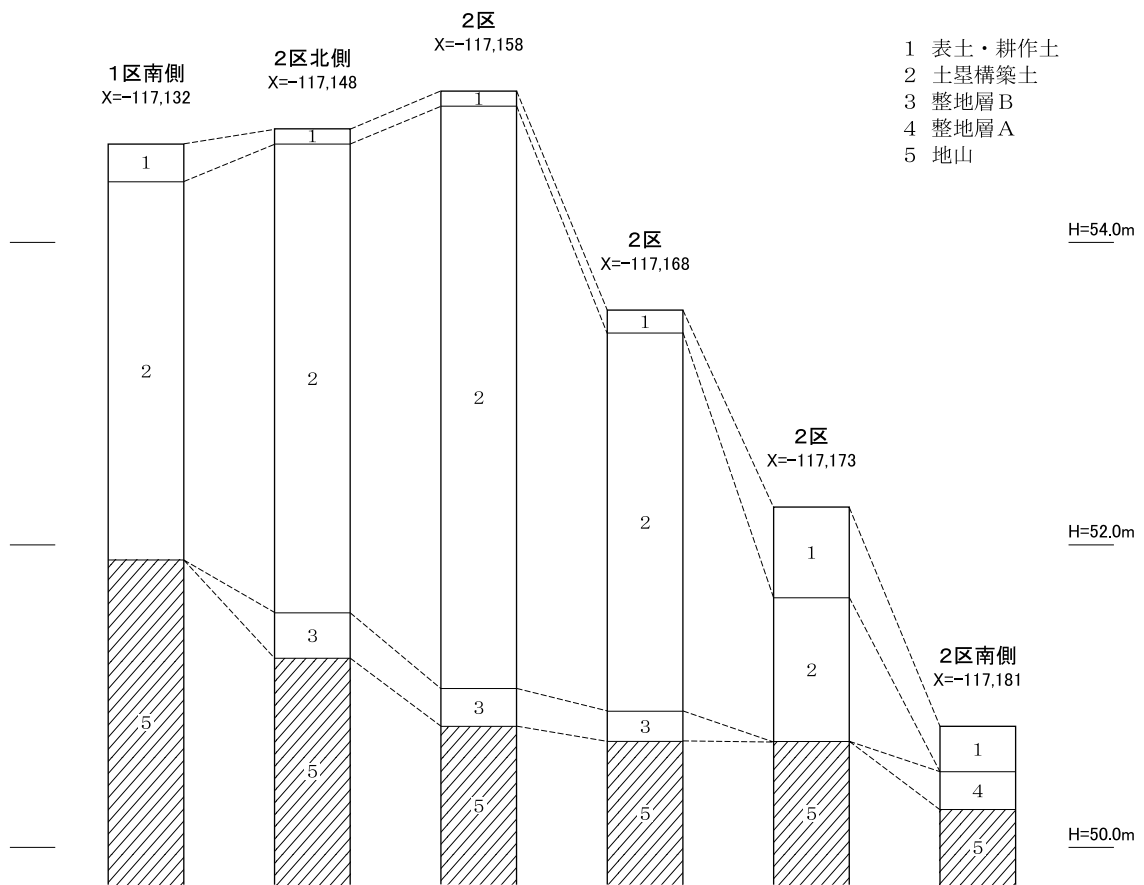


図6 基本層序模式柱状図 (1 : 50)

表2 遺構概要表

時代	遺構	備考
安土桃山時代	土塁1	
江戸時代	土坑2・3	

のコンクリート擁壁内に位置するため、全体の施工範囲は不明である。

土塁構築土は、土色・土質が異なるいくつかの構築土層によって構成されている。大きく以下の4類に分類した(表3)。

構築土i類：赤色を呈する中砂～細砂の土層。

構築土ii類：黄色を呈する粗砂～シルトの土層。

構築土iii類：灰色もしくは黄色を呈する細砂～シルトの土層。

構築土iv類：褐色を呈する粗砂～シルトの土層。

土塁構築土は、作業の大きな工程を示すと考えられる構築単位が複数認められる(図版1)。以下、各構築単位について記述する。

単位a(図版2・3) 2区中央部に位置する構築単位である。南北23.2m、厚さは最大で3.3mを測る。南斜面の傾斜角は、約22°である。構築土i類と構築土ii類を交互に積み重ねており、一部で構築土iii類が認められる。構築土iii類の多くは、単位の北半下部で確認した。また、標高52.4mから54.1mの範囲には、構築土iii類を薄い単位で叩き締めながら積み上げた、大きなブロック状の土層(152層)が認められた。152層は、153層から160層までを積み上げた後に、これらを掘り込んで積み上げていた。南斜面では、礫を含まない構築土(166・175層)と1～6cm大の円礫を多く含む構築土(167層)が互層をなす箇所がある。土塁の芯として、最初に構築に着手された単位である。

表3 構築土分類表

構築土分類	土層No.
i類	32、34、36、38、44、50、62、68、69、73、76、77、80、81、84、86、89、90、94、95、98、102、103、105、106、112、115、118、119、121、123、125、126、129、131、134、136、138、140、142、146、148、151、154、155、157、159、161、163、168、170、171、173、175、177、180、182、187、189、191、193、194
ii類	7～9、16、20～22、24、26、29、31、33、35、37、39～41、43、47、51、56、58、60、61、63、72、74、75、78、79、82、83、85、87、88、91、92、96、97、100、101、104、107～109、111、113、114、117、122、124、127、128、130、132、137、141、143、144、147、149、150、153、156、158、160、162、164、165、167、169、172、174、176、178、179、181、183、184、188、195
iii類	4、19、23、25、27、28、30、42、45、46、48、57、59、64、67、70、71、93、99、110、116、120、133、135、139、145、152、166、185、186、190、192
iv類	3、5、6、10～15、17、18、49、52～55、65、66

単位 b (図版 2・3) 2区北側に位置する構築単位である。南北13.2m以上、厚さは最大で2.8mを測る。北端部はコンクリート擁壁内に位置するため確認できない。単位 a 北側の上に一部重複させて構築している。構築土 i 類と構築土 ii 類を交互に積み重ねており、一部で構築土 iii 類が認められる。構築土 ii 類は礫が混入するものが多い。

単位 c (図版 2) 1区に位置する構築単位である。南北3.1m以上、厚さは最大で2.1mを測る。砂礫を多量に含む構築土 ii 類と構築土 iii 類を水平に積み上げている。

単位 d (図版 3・4) 2区中央部から南側に積まれた構築単位である。水平距離にして南北19m、厚さは最大で1.9mを測る。単位 a の南斜面上に構築している。南斜面の傾斜角は約14°である。構築土 i 類・ii 類・iii 類を積み重ねており、裾部を中心に iv 類が認められる。また裾部では礫を含まないシルト質の構築土 (56・59・71層) と1～6cm大の円礫を多く含む構築土 (66層) が互層をなす箇所がある。

単位 e (図版 2・3) 2区の単位 a・b・d 上部に積まれた構築単位である。南北13.7m、厚さは最大で2.2mを測る。構築土 i 類・ii 類・iii 類・iv 類を積み重ねている。

単位 f (図版 2) 2区の北側に積まれた構築単位である。南北6.9m以上、厚さは1.3m以上を測る。北端部はコンクリート擁壁内に位置するため確認できない。単位 b の北斜面上に構築している。構築土 i 類・ii 類・iii 類を積み重ねている。

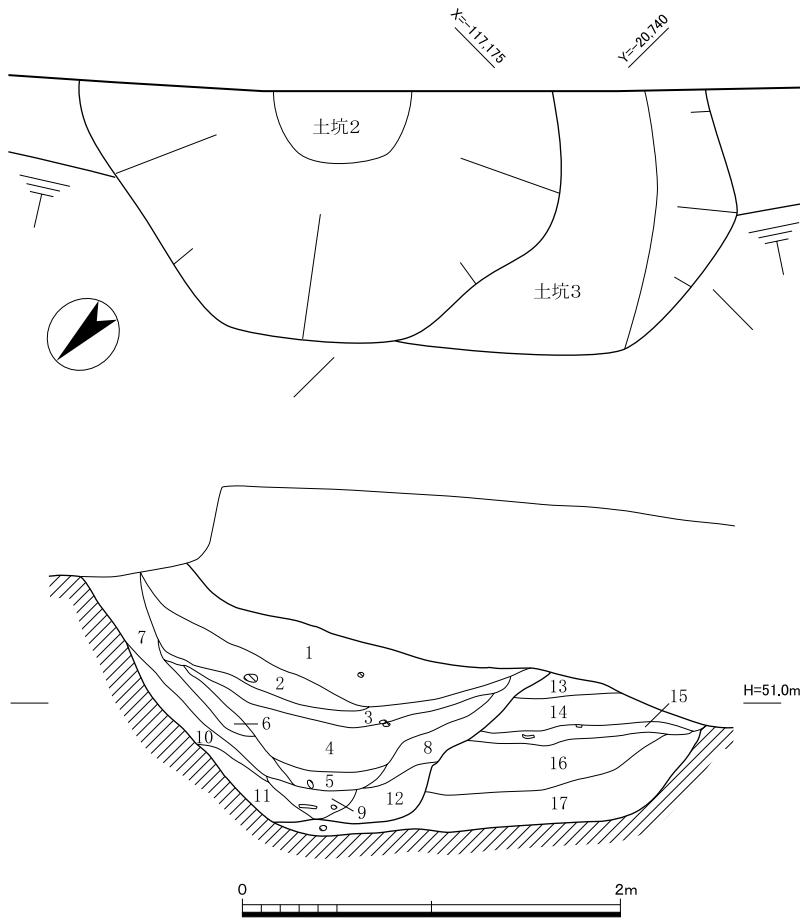
単位 g (図版 3・4) 2区南側に積まれた構築単位である。水平距離にして南北12.4m、厚さは最大で1.0mを測る。単位 d の南斜面上に構築している。構築土は構築土 ii 類・iv 類である。

整地層 A (図版 4) 土塁 1 南裾で確認した整地層である。厚さ約0.2～0.4mを測る。

2) 江戸時代

土坑 2 (図 7) 土塁 1 南裾で検出した。径2.5m以上、深さ1.0m以上を測る。遺構北西部は線路で削平されており、南東部は調査区外に伸びるため、全体の規模は不明である。

土坑 3 (図 7) 土塁 1 南裾で検出した。径1.4m以上、深さ0.8m以上を測る。土坑 2 に削平されている。遺構北西部が線路で削平され、南東部は調査区外に伸びるため、全体の規模は不明である。



- | | | | | | |
|----|--------------|----------|-------------------|-------|-------|
| 1 | 10YR4/4褐 | 粗砂～細砂 | φ1～3cmの礫少量含 | やや締まる | } 土坑2 |
| 2 | 10YR4/6褐 | 粘質シルト | φ1～8cmの礫少量含 | やや締まる | |
| 3 | 10YR4/6褐 | 粘質シルト | φ1～4cmの礫少量含 | やや締まる | |
| 4 | 10YR5/6黄褐 | 粘質シルト | φ0.5～3cmの礫少量含 | やや締まる | |
| 5 | 7.5YR4/4褐 | 粘質シルト | φ0.5～4cmの礫中量含 | 締まり無し | |
| 6 | 7.5YR5/6明褐 | 粘質シルト | φ0.5cmの礫極少量含 | やや締まる | |
| 7 | 7.5YR4/6褐 | 粘質シルト | φ0.5～1cmの礫極少量含 | やや締まる | |
| 8 | 7.5YR5/6明褐 | 中砂～粘質シルト | φ0.5～2cmの礫少量含 | やや締まる | |
| 9 | 7.5YR4/6褐 | 細砂～粘質シルト | φ1～3cmの礫極少量、瓦片少量含 | 締まり無し | |
| 10 | 7.5YR4/4褐 | 粘質シルト | φ1～2cmの礫極少量含 | やや締まる | |
| 11 | 7.5YR4/6褐 | 粘質シルト | φ1cmの礫極少量含 | やや締まる | |
| 12 | 10YR3/4暗褐 | 粘質シルト | φ0.5～2cmの礫少量含 | やや締まる | |
| 13 | 7.5YR3/4暗褐 | 粘質シルト | φ0.5～1cmの礫少量含 | やや締まる | |
| 14 | 7.5YR4/3褐 | シルト やや粘質 | φ0.5～1cmの礫少量含 | やや締まる | } 土坑3 |
| 15 | 7.5YR5/6明褐 | 粘質シルト | φ0.5～2cmの礫少量含 | やや締まる | |
| 16 | 10YR4/3にぶい黄褐 | 粘質シルト | φ0.5～2cmの礫・炭少量含 | やや締まる | |
| 17 | 7.5YR4/4褐 | 粘質シルト | φ0.5～1cmの礫少量含 | やや締まる | |

図7 土坑2・3実測図(1:40)

4. 遺物

(1) 遺物の概要 (表4)

出土遺物は安土桃山時代から江戸時代の土器類や瓦類、土製品が出土した。遺物は表土や江戸時代の土坑から出土しており、土塁構築土から出土した遺物はない。安土桃山時代の瓦類は、道具瓦、丸瓦などがある。軒瓦は出土していない。道具瓦は、剣花菱文の方形飾瓦が出土した。江戸時代の土器類は施釉陶器がある¹⁾。土製品は土人形がある。

肥前系陶器については、『九州近世陶磁学会10周年記念 九州陶磁の編年』(九州陶磁学会2000年)を参照した。

(2) 土器類 (図8・9、付表1)

1は肥前系陶器の刷毛目椀である。削り出し高台である。1区の表土から出土した。江戸時代である。

2は肥前系磁器の染付椀である。高台内も施釉されている。2区の土坑2から出土した。江戸時代である。

(3) 瓦類 (図8・9、付表2)

3は剣花菱文の方形飾瓦である。成形は范型による。側面、裏面はナデ調整である。2区の土坑2から出土した。同文瓦が調査8でも出土している。安土桃山時代である。

4は丸瓦である。玉縁側は欠損する。成形は粘土板1枚作りである。凹面の布目には抜き縄痕跡が明瞭に付く。両側面はケズリ調整である。凸面は縦方向のミガキ調整を施す。2区の表土から出土した。安土桃山時代である。

(4) 土製品 (図8・9、付表3)

5は商人の土人形である。型作りによる成形である。彩色は認められない。2区の表土から出土した。江戸時代である。

表4 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
安土桃山時代	瓦類		瓦類2点		
江戸時代	施釉陶器、土製品		施釉陶器2点、土製品1点		
合計		4箱	5点(1箱)	0箱	3箱

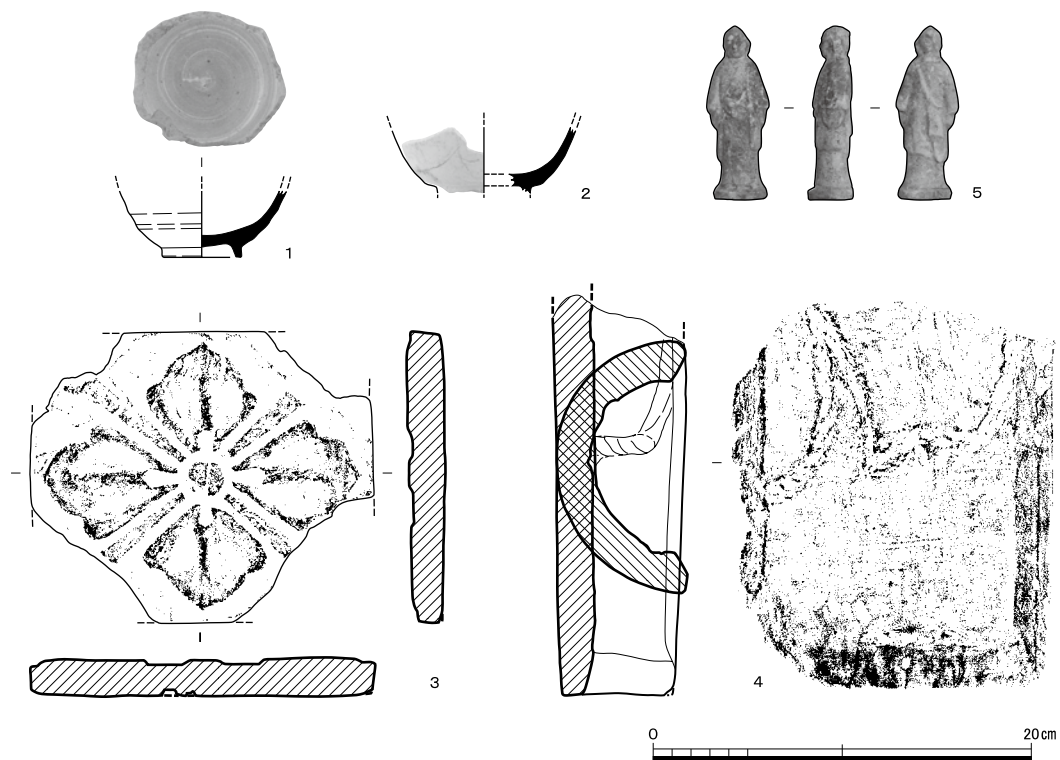


图8 出土遺物拓影・実測図（1：4）



图9 出土遺物写真

5. 土塁構築土の硬度試験

今回の調査では、土塁構築土の硬度測定を目的とした針貫入試験を実施した¹⁾。試験には、大場計器製作所製の棒状硬度計（20N）を用いた。試験位置は、図10に示したように、1区で1箇所（測線Ⅰ）、2区で4箇所（測線Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ）を設定した。測定は、現地で確認した構築土や整地層B、地山の層界と、各土層内の上・中・下部3箇所を対象とした。測定の前に、試験面を削り取り、新鮮な面を露出させてから試験を実施した。なお、試験箇所が線路の至近であり、シート養生等による試験面の保全ができなかった。そのため、各測線間で土壌の乾燥具合にばらつきが生じているが、同一側線内では同一条件で測定できるよう留意した。試験を実施するにあたり、辻本裕也氏・辻 康男氏（パリノ・サーヴェイ株式会社）からご教示をいただいた。

（1）各測線の測定結果（図10、表5・6）

測線Ⅰ：1区南端の測線である。測点数は51である。N値は2.0から7.5の範囲に分布する。中央値は3.5、平均値は3.97である。対象となった土層数は14である。内訳は、構築土の土層数が10、地山の土層数が4である。構築土では18層、25層、27層から198層の層界にかけて、高いN値が認められる。23層に低いN値が認められる。地山では199層に高いN値が認められる。200層では、礫当たりのため一部測定不能の結果が出た。

測線Ⅱ：2区北側の測線である。土塁1のほぼ中央部に位置する。測点数は63である。N値は2.0から7.5の範囲に分布する。中央値は3.5、平均値は3.85である。対象となった土層数は16である。内訳は、構築土の土層数が11、整地層Bの土層数が2、地山の土層数が3である。構築土では28層、83層上層、98層、102層に高いN値が認められる。73層に低いN値が認められる。整地層Bでは197層に高いN値が認められる。地山では199層に高いN値が認められる。

測線Ⅲ：2区中央の測線である。土塁1の南肩部に位置する。測点数は79である。N値は1.0から9.0の範囲に分布する。中央値は3.0、平均値は3.57である。対象となった土層数は20である。内訳は、構築土の土層数が16、整地層Bの土層数が2、地山の土層数が2である。構築土では52層、128層と141層の層界、152層下層、160層と161層の層界、161層に高いN値が認められる。141層、158層、159層、196層に低いN値が認められる。地山では199層に高いN値が認められる。

測線Ⅳ：2区南側の測線である。土塁1の南斜面に位置する。測点数は75である。N値は0.5から10.0の範囲に分布する。中央値は3.5、平均値は3.77である。対象となった土層数は19である。内訳は、構築土の土層数が15、整地層Bの土層数が2、地山の土層数が2である。構築土では4層、61層、64

表5 測線別統計量

	測線Ⅰ	測線Ⅱ	測線Ⅲ	測線Ⅳ	測線Ⅴ
平均	3.97	3.85	3.57	3.77	3.10
中央値	3.5	3.5	3.0	3.5	2.5
最頻値	3.5	3.5	3.0	2.0	2.5
標準偏差	1.255234	1.183335	1.640998	2.091381	1.675407
最小値	2.0	2.0	1.0	0.5	0.5
最大値	7.5	7.5	9.0	10.0	7.0
測点数	51	63	79	75	31

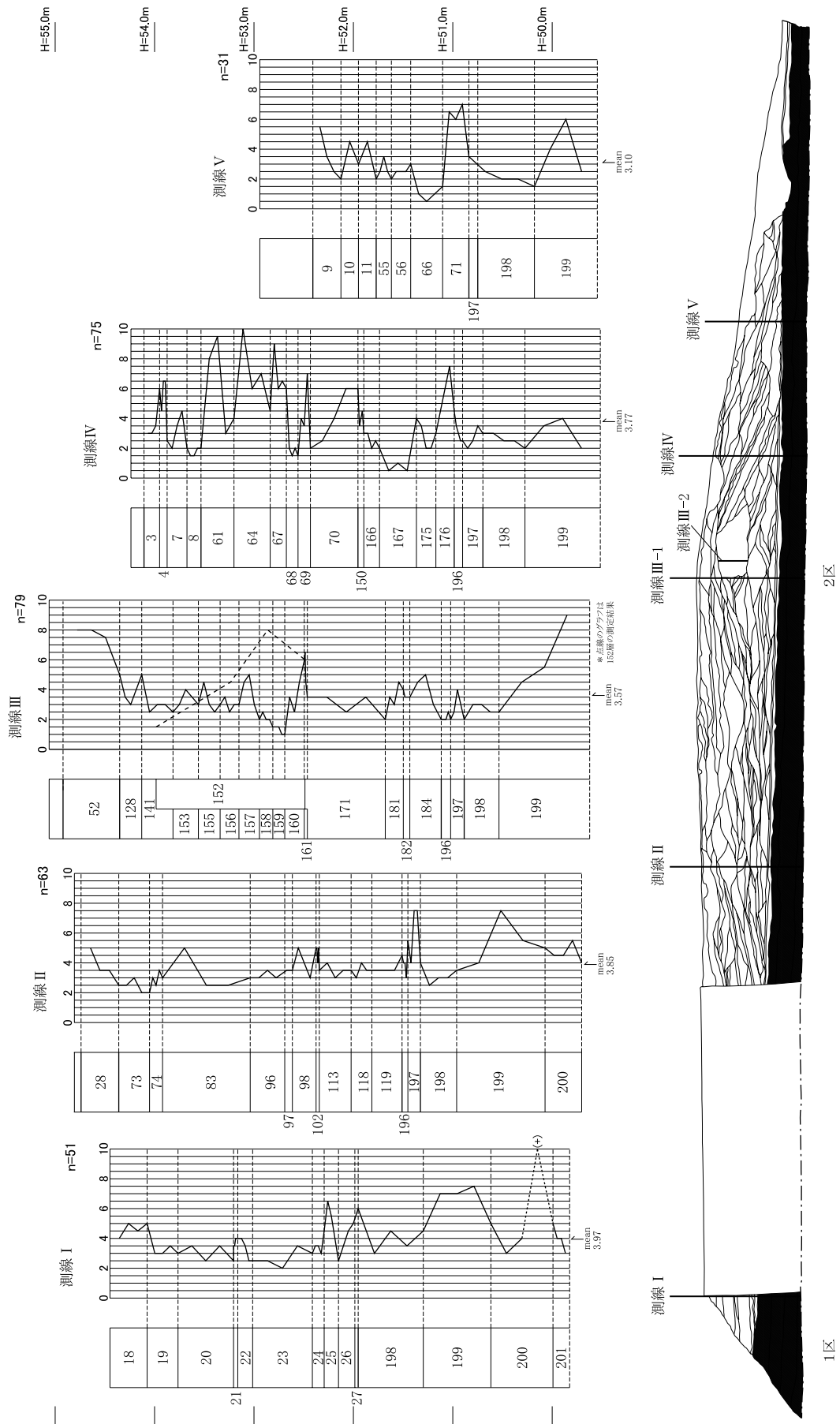


図10 土層構築土硬度測定結果 (上段 1 : 60、下段 1 : 300)

表6 測点成果一覽表

側線 I				側線 II				側線 III				側線 IV						
層No.	構築土分類	N値	N値平均	層No.	構築土分類	N値	N値平均	層No.	構築土分類	N値	N値平均	層No.	構築土分類	N値	N値平均			
18	iv類	4.0	4.5	98	i類	5.0	4.3	159	i類	1.5	1.3	69	i類	4.0	4.8			
		5.0						3.0				1.5					3.5	
		4.5						5.0				1.0					7.0	
層界		5.0		層界		5.0		層界		1.0		層界		2.0				
19	iii類	3.0	3.2	102	i類	5.0	4.7	160	ii類	3.5	3.5	70	iii類	2.5	4.2			
		3.0						4.0				2.5					4.0	
		3.5						5.0				4.5					6.0	
層界		3.0		層界		3.5		層界		6.0		層界		6.0				
20	ii類	3.5	3.2	113	ii類	4.0	3.7	161	i類	6.5	5.0	150	ii類	3.5	4.0			
		2.5						3.5				4.5					4.0	
		3.5						3.5				4.0					4.5	
層界		2.5		層界		3.5		層界		3.5		層界		3.5				
21	ii類	3.5	3.7	118	i類	3.0	3.5	171	i類	3.5	3.2	166	iii類	3.5	2.7			
		3.5						4.0				2.5					2.0	
		4.0						3.5				3.5					2.5	
層界		4.0		層界		3.5		層界		2.0		層界		2.0				
22	ii類	4.0	3.3	119	i類	3.5	3.5	181	ii類	3.5	3.7	167	ii類	0.5	0.7			
		3.5						3.5				3.0					1.0	
		2.5						3.5				4.5					0.5	
層界		2.5		層界		4.5		層界		4.0		層界		4.0				
23	iii類	2.5	2.7	196	(整地層B)	4.0	3.7	182	i類	3.5	3.5	175	i類	3.5	2.5			
		2.0						4.0				3.5					2.0	
		3.5						3.0				3.5					2.0	
層界		3.0		層界		5.5		層界		3.5		層界		3.0				
24	ii類	3.5	3.3	197	(整地層B)	4.0	6.3	184	ii類	4.5	4.2	176	ii類	4.5	6.0			
		3.5						7.5				5.0					6.0	
		3.0						7.5				3.0					7.5	
層界		4.5		層界		4.0		層界		2.0		層界		4.5				
25	iii類	6.5	5.3	198	(地山)	2.5	2.8	196	(整地層B)	2.0	2.2	196	(整地層B)	3.5	3.0			
		5.5						3.0				2.0					3.0	
		4.0						3.0				2.5					2.5	
層界		2.5		層界		3.5		層界		2.0		層界		2.5				
26	ii類	3.5	4.0	199	(地山)	4.0	5.7	197	(整地層B)	2.5	3.2	197	(整地層B)	2.0	2.7			
		4.5						7.5				4.0					2.5	
		5.0				5.5				3.0						3.5		
層界		6.0		層界		5.0		層界		2.0		層界		3.0				
27	iii類	5.0	5.0	200	(地山)	4.5	4.7	198	(地山)	3.0	2.8	198	(地山)	3.0	2.7			
		4.5						4.5				3.0					2.5	
		3.5				5.0				2.5						2.5		
層界		4.5				4.5		層界		2.5		層界		2.0				
199	(地山)	7.0	7.2	側線 III				199	(地山)	4.5	6.3	側線 V						
		7.0			層No.	構築土分類	N値	N値平均					層No.	構築土分類	N値	N値平均		
		7.5			52	iv類	8.0	7.8					9	ii類	5.5	3.8		
層界		5.0				8.0		側線 IV										
200	(地山)	3.0	3.5	層界		5.0		層No.	構築土分類	N値	N値平均	層No.	構築土分類	N値	N値平均			
		4.0			128	ii類	3.5	3.5	3	iv類	3.0	3.2	9	ii類	5.5	3.8		
		*					3.0				3.0							
層界		5.0		層界		4.0		層界		3.5		層界		2.5				
201	(地山)	4.0	3.7	層界		5.0		4	iii類	4.5	5.8	10	iv類	4.5	3.8			
		4.0			141	ii類	2.5	2.8			6.5							
		3.0					3.0		層界		6.5		11	iv類	4.5	4.5		
側線 II				層界		2.5		層界		2.5		層界		2.0				
層No.	構築土分類	N値	N値平均	層No.	構築土分類	N値	N値平均	層No.	構築土分類	N値	N値平均	層No.	構築土分類	N値	N値平均			
28	iii類	5.0	4.0	152	iii類	3.0	5.2	7	ii類	2.0	3.3	55	iv類	2.5	2.8			
		3.5						4.5				3.5					3.5	
		3.5						8.0				4.5					2.5	
層界		2.5		層界		6.0		層界		2.0		層界		2.0				
73	i類	2.5	2.5	153	ii類	3.0	3.5	8	ii類	1.5	1.7	56	ii類	2.5	2.5			
		3.0						4.0				1.5					2.5	
		2.0						3.5				2.0					2.5	
層界		2.0		層界		3.0		層界		2.0		層界		3.0				
74	ii類	3.0	3.0	155	i類	4.5	3.3	61	ii類	8.0	6.8	66	iv類	1.0	0.8			
		2.5						3.0				9.5					0.5	
		3.5						2.5				3.0					1.0	
層界		3.0		層界		3.0		層界		4.0		層界		1.5				
83	ii類	5.0	3.3	156	ii類	3.5	3.0	64	iii類	10.0	7.7	71	iii類	6.5	6.5			
		2.5						2.5				6.0					6.0	
		2.5						3.0				7.0					7.0	
層界		3.0		層界		3.0		層界		4.5		層界		3.5				
96	ii類	3.0	3.2	157	i類	4.5	4.2	67	iii類	9.0	7.2	197	(整地層B)	2.5	2.5			
		3.5						5.0				6.0					2.0	
		3.0						3.0				6.5					2.0	
層界		3.5		層界		2.0		層界		6.0		層界		1.5				
97	ii類	3.5	3.5	158	ii類	2.5	2.2	68	i類	2.0	1.8	199	(地山)	4.0	4.2			
		3.5						2.0				1.5					6.0	
		3.5						2.0				2.0					2.5	
層界		3.5		層界		1.5		層界		1.5		層界		2.5				

層、67層、176層に高いN値が認められる。8層、68層、167層に低いN値が認められる。

測線Ⅴ：2区南側の測線である。土塁1の南斜面に位置する。測点数は31である。N値は0.5から7.0の範囲に分布する。中央値は2.5、平均値は3.10である。対象となった土層数は10である。内訳は、構築土の土層数が7、整地層Bの土層数が1、地山の土層数が2である。構築土では71層に高いN値が認められる。66層に低いN値が認められる。地山では199層に高いN値が認められる。

(2) 構築土分類別の結果 (表7)

測定の対象となった構築土の土層数は59を数える。構築土分類別に集計すると、構築土i類が14、構築土ii類が26、構築土iii類が12、構築土iv類が7である。構築土分類別にN値の高低を集計すると、構築土iii類では12例中、8例(66.7%)が高いN値を示し、1例(8.3%)が低いN値を示した。構築土iv類は7例中、3例(42.9%)が高いN値を示し、1例(14.2%)が低いN値を示した。構築土i類・ii類は、明確な傾向を読み取ることができなかった。

表7 構築土分類別の結果

	土層数	N値		
		高	中	低
構築土i類	14 (100%)	3 (21.4%)	8 (57.2%)	3 (21.4%)
構築土ii類	26 (100%)	3 (11.5%)	19 (73.1%)	4 (15.4%)
構築土iii類	12 (100%)	8 (66.7%)	3 (25.0%)	1 (8.3%)
構築土iv類	7 (100%)	3 (42.9%)	3 (42.9%)	1 (14.2%)
計	59	17	33	9

(3) 小 結

同一測線内で構築土のN値の高低が認められた。顕著に高いN値を示す層以外にも、上下層のN値が低いため、相対的に高い値を示す箇所もあった(例：測線Ⅰの19～20層(低)・21～22層(高)・23層(低)など)。

実地で区分できた層であっても、N値では顕著な違いがない事例を確認した(例：測線Ⅱの113・118・119層など)。一方、83層・152層は、今回の試験結果では土層内の上部・下部でN値が異なっていた。現地観察では明確な層界を確認しなかったが、硬度試験から少なくとも上下2層に区分できると考えられる。

現在の地表面に近い構築土は、相対的にN値が高い傾向がある(測線Ⅰ：18層(iv類)、測線Ⅱ：28層(iii類)、測線Ⅲ：52層(iv類)、測線Ⅳ：4層(iii類))。地山上面に近い構築土は、相対的にN値が高い傾向がある(測線Ⅰ：27層(iii類)、測線Ⅲ：184層(ii類)、測線Ⅳ：176層(ii類)、測線Ⅴ：71層(iii類))。測線Ⅱでは、整地層Bとした197層のN値が高い。また、土塁南斜面の構築にあたり、単位dの施工の起点となる152層(iii類)や、単位gの施工の起点となる61層(ii類)、64層(iii類)、67層(iii類)にも高いN値が認められた。

構築土分類別の傾向を見ると、構築土iii・iv類に高いN値を示す事例が多い。構築土iii類は、南斜面から南肩口周辺、単位a・cの下方など、構築作業の起点に分布している。構築土iv類は、主に南斜面の土塁外表に分布している。施工するにあたって強度が必要な箇所に、意図的に積み上げられた可能性がある。

6. ま と め

調査では、伏見城惣構の北辺土塁（土塁1）の断面構造を明らかにした。今回の成果は、伏見城惣構の北辺土塁断面の規模や構造を初めて明らかにした考古学的データとして、重要なものと考える。以下、土塁の構築と規模について、若干の考察を加える。

(1) 土塁の構築について

土塁構築土は、赤色を呈する構築土 i 類と黄色を呈する構築土 ii 類が主体であり、その他、灰色もしくは黄色を呈する構築土 iii 類と褐色を呈する構築土 iv 類が認められた。構築土 i 類と構築土 ii 類は、今回調査地の地山（198～200層）と土色、土質が近似していた。

構築土の硬度試験では、構築土 iii・iv 類が硬化していた（N 値が高い）ことを示す結果を得た。構築土 iii・iv 類は、現地表面付近や、南斜面から南肩口周辺、単位 a・c の下方に、意図的に積み上げたと考えられる。土塁や、施工の起点を強化する目的があったと推察する。

単位 a と単位 b では、構築土 i 類と ii 類の互層が顕著であった。今回の試験では、構築土 i 類・ii 類の硬度に明確な差異は認められなかったが、土塁の構築にあたって、異なる土質の土を意識的に選択して積み上げた可能性が高い¹⁾。

土塁構築過程は、以下のように復元した。

第1段階：土塁構築部分の地山上面を、緩やかな南下り斜面に成形する。構築土を積み上げる際の作業効率や、土塁の強度を高めるために、意図的に北側を高く残した可能性がある。なお、調査8では、周辺屋敷地のひな壇造成と同時に土塁を構築したことを確認している。

第2段階：均した地山上面に、厚さ約0.25mの整地層B（196・197層）を施す。

第3段階：整地層Bの上に土塁の構築土を積み上げる。その際、地山上面に近い構築土は、硬度試験結果の通り、高いN値を示していることから、構築の際に踏み締め等が行われた可能性がある。斜面部では、裾部に土手状の高まりを造り、これを仮の土留めとして構築土を高く積み上げている。

第3段階の構築土の積み上げは、さらに細かい手順が考えられる。なお、各構築単位の積み上げに際しては、土砂の運搬や、ここで作業する多数の人夫・職人の動線などを考えると、ひとつの構築単位を積み終えた後に、次の構築単位を積み上げるといった逐次的な工程を経るのではなく、いくつもの構築単位の積み上げ作業を、ある程度並行して実施する工程が効率的と考えられる。

① 土塁1の南肩口付近に単位aを構築する。地山上面が南下がりの緩斜面を呈することから、単位a自体が結果として大きな堤防状の高まりを呈することになる。構築土を積み上げる際の作業効率や、土塁の強度を高める工夫と推察する。また、152層は巨大なブロック状を呈しており、単位aの構築土の中で規模・土質が異質である。土塁1の南肩口にあたり、かつ南斜面における単位dの施工の起点に当たることから、工法上の何らかの工夫と考える。

② 単位aの北側に単位bを構築する。構築土ii類は礫の混入が顕著となる²⁾。

- ③ 単位 a の南斜面を単位 d、単位 a・b 間の凹みを単位 e、単位 b の北斜面を単位 f で覆う。単位 d では、礫を加えない構築土と円礫を加える構築土の互層が認められる。また、南斜面から南肩口周辺の構築土は、硬度試験結果の通り、高い N 値を示していることから、踏み締めなどが行われた可能性がある。特に南肩口周辺の構築土は、152 層と同様、南斜面における単位 g の施工の起点に当たることから、工法上の工夫の可能性はある。
- ④ 土塁南斜面の外表面を単位 g で覆う。単位 g が南斜面のみに施工されたかは不明である。単位 g が土塁の最終構築土と考えるならば、単位 e・f 上の土塁頂部にも施された可能性が想定できる。

(2) 土塁の規模について (図11)

まず土塁の幅については、これまでの調査例³⁾と周辺地形から、当該箇所³⁾の土塁はほぼ東西方向に構築されていると仮定して考察する (図5)。調査8では土塁南端に東西方向の内溝を検出している。検出された内溝中心の座標は $X = -117,174$ である。今回調査では土塁の南裾が攪乱されていたため内溝の検出はできなかった。しかし、土塁の構築土と整地層 A の境界となる $X = -117,173.1$ から $X = -117,175.7$ の間に南端が位置する可能性が高い。両調査間の座標値に大きな差はないため、 $X = -117,174$ あたりに土塁南端が位置したと推定する。

土塁北端は、今回の調査では確認できなかった。しかし、周辺地形の観察によって、今回調査の 1 区南端 ($X = -117,132$) 周辺から、北に向かって下る傾斜を確認できる。この傾斜を土塁北側の斜面と捉えるならば、1 区南端 ($X = -117,132$) 付近が土塁北肩口に相当する可能性が高い。今回調査の結果から推定する南肩口から南端部までの距離は約 18 m を測る (図11: ア-ア')。調査区に沿って、北肩口から北側に 18 m 延長した箇所を土塁北斜面の北端⁴⁾と仮定すると (図11: イ-イ')、南端 ($X = -117,174$) から北端までの距離は、およそ 60 m (約 33 間) と復元できる。

土塁の高さは、当時の地表面と考えられる整地層 A (1 層上面: 標高 50.8 m) から土塁頂部 (標高 55.0 m) まで 4.2 m を測る。しかし、単位 g とした南斜面外表を構成する構築土が、現在の土塁頂部の上にさらに積み上げられていた可能性もあるため、ここでは土塁の高さは 4.2 m 以上としておく⁵⁾。

註

- 1) 主に古墳の盛土の調査において、今回実施した針貫入試験による硬度測定のほか、土壌密度や水分量の測定といった地盤工学的調査を活用して、硬度以外の属性を総合的に検討している。
- 三村 衛・石崎武志「高松塚古墳墳丘の現状とその地盤性について」『地盤工学ジャーナル』Vol.1, No.4 公益社団法人地盤工学会 2006年
- 三村 衛・吉村 貢・金田 遙「高松塚古墳墳丘の構造と原位置試験および室内試験による地盤特性の評価に関する研究」『土木学会論文集 C』Vol.65, No.1 社団法人土木学会 2009年
- 三村 衛「土壌の調査・分析・工法試験」『史跡 昼飯大塚古墳Ⅲ』大垣市埋蔵文化財調査報告書 大垣市教育委員会 2013年

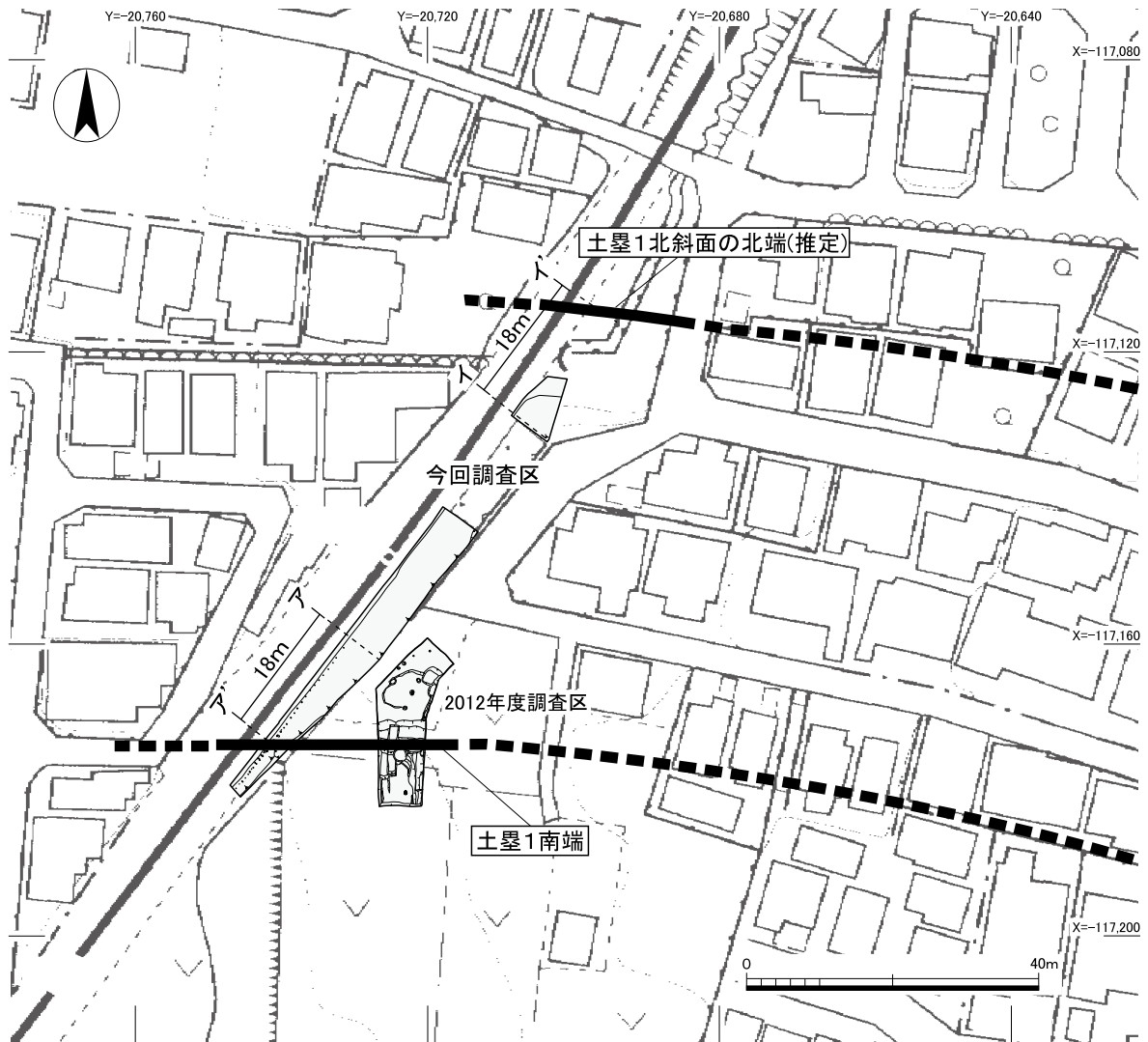


図11 土塁1復元平面図（1：1,000）

- 2) 辻本裕也氏から土塁本体への浸透水対策として意図的な礫の混入の可能性を指摘していただいた。
- 3) 伏見城惣構の北辺土塁は、絵図や古地図、現地踏査から復元されている。
山田邦和「伏見城とその城下町の復元」『豊臣秀吉と京都－聚楽第・御土居と伏見城－』 文理閣 2001年
- 4) 現地形の観察から、北斜面の北端は、堀底の南側の立ち上がりに相当する可能性も想定している。
- 5) 山田邦和氏の計測によると、榮春寺境内の土塁遺構は、幅約20m、高さ約6mを測る。
註3文献参照。

付表1 出土土器観察表

No.	器種	器形	地区	遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
1	施釉陶器	椀	1区	表土	-	-	4.2	(釉)7.5YR7/4こぶい橙色 (胎)7.5YR8/6浅黄橙色	肥前系
2	施釉陶器	椀	2区	土坑2	-	-	-	(釉)7.5YR8/1灰白色 (胎)N8/0灰白色	肥前系

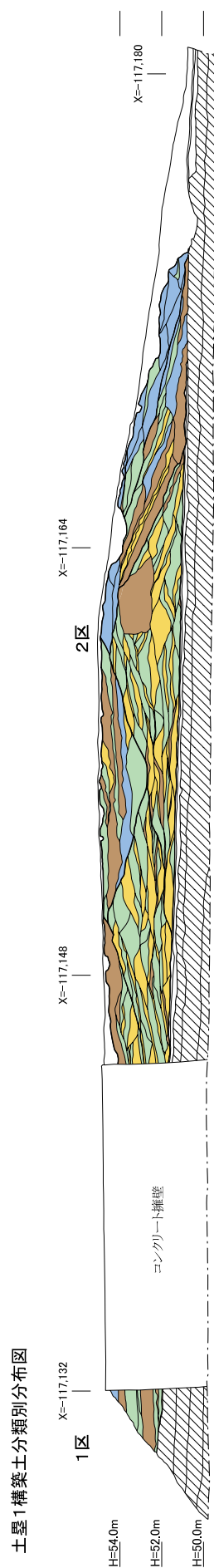
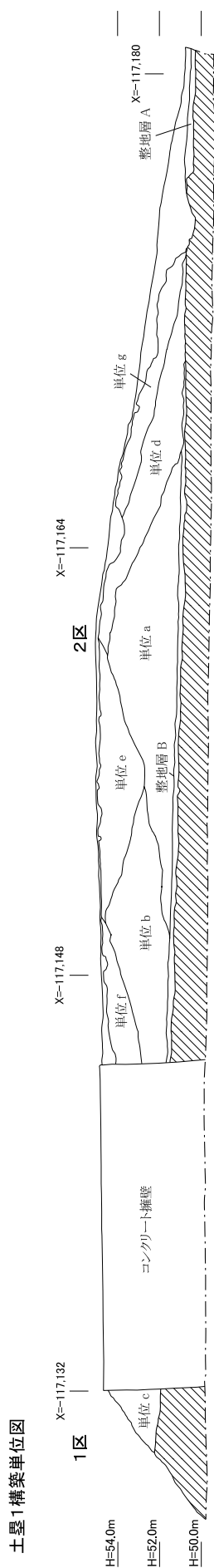
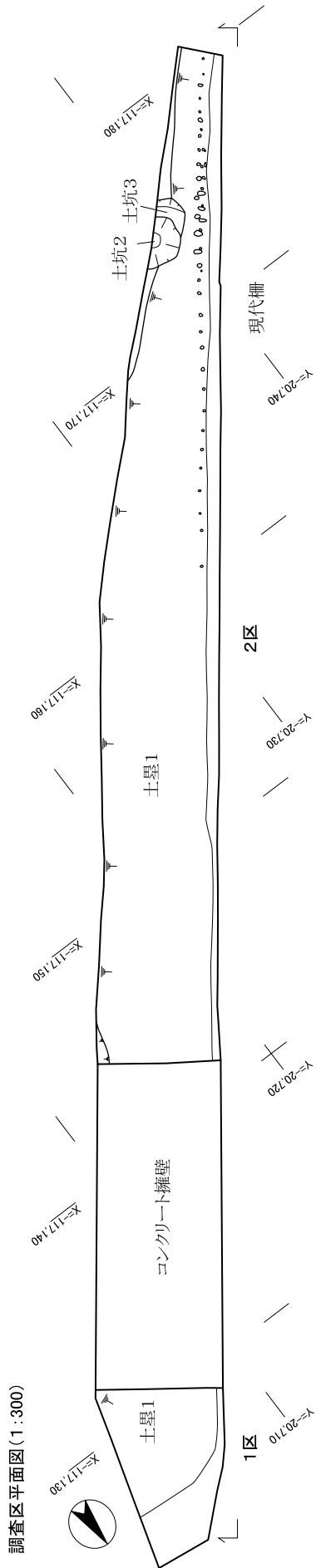
付表2 出土瓦観察表

No.	種類	地区	遺構名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	色調	備考
3	飾瓦	2区	土坑2	20.5	18.3	2.1	5Y4/1灰色	型押しによる剣花菱文、 裏面・側面:ナデ調整
4	丸瓦	2区	表土	-	13.5	2.0	N3/0暗灰色	凸面:縦ミガキ、 凹面:布目(抜き縄痕跡残存)、側面:ケズリ

付表3 出土土製品観察表

No.	種類	地区	遺構名	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	色調	備考
5	土人形	2区	表土	9.2	3.3	2.4	10YR7/3こぶい黄橙色	商人

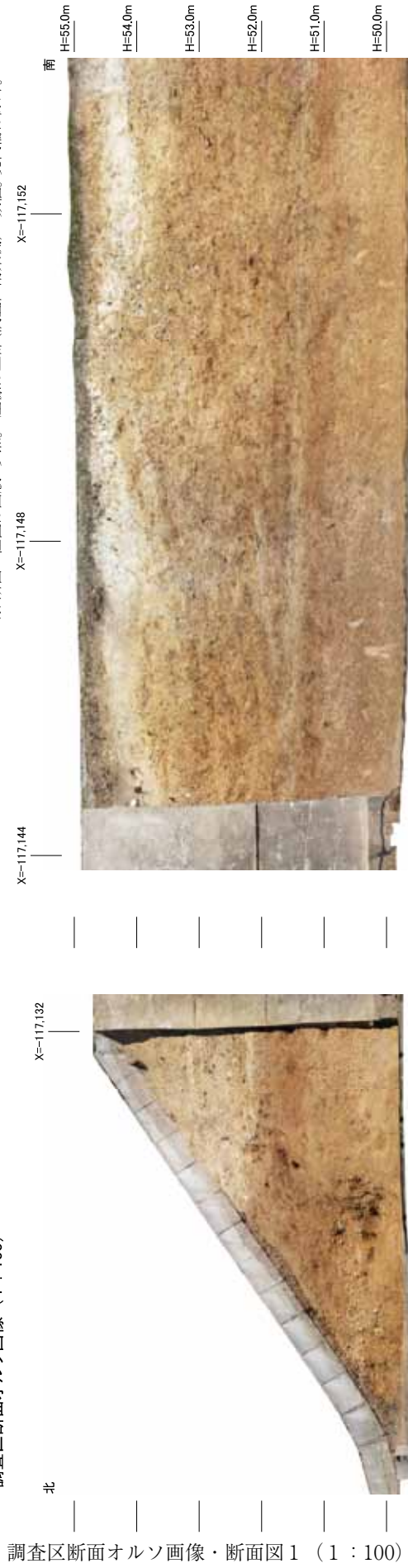
圖 版



調査区平面図、土塁1構築単位図・構築土分類別分布図 (1:300)

図版2 遺構

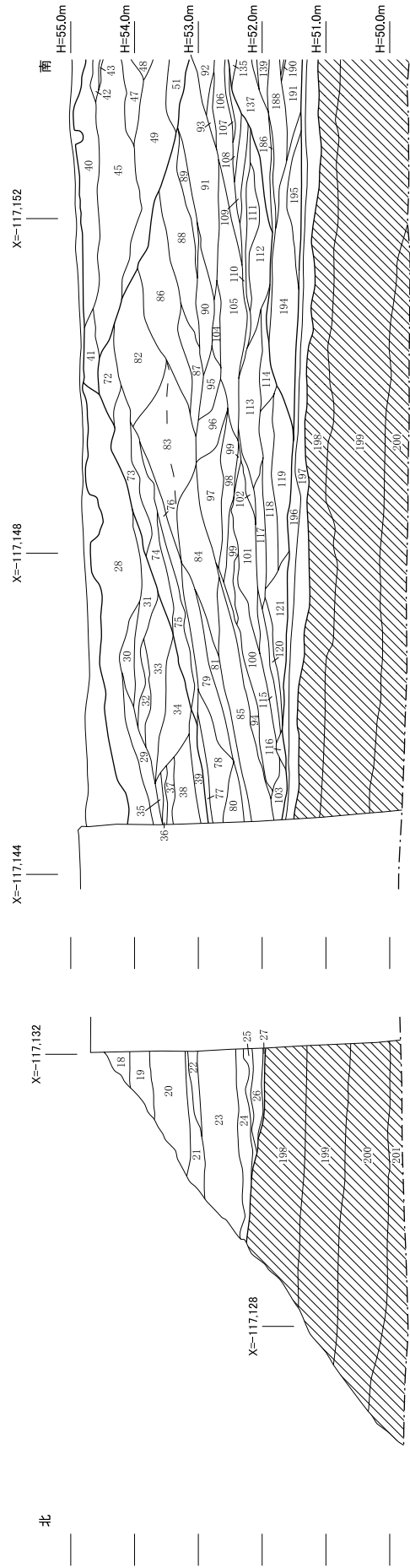
調査区断面オルソ画像 (1 : 100)



調査区断面オルソ画像・断面図1 (1 : 100)

1区

調査区断面図 (1 : 100)



※ 層番号は図版2～4共通、層名は図版4・5参照。

調査区断面オルソ画像 (1 : 100)

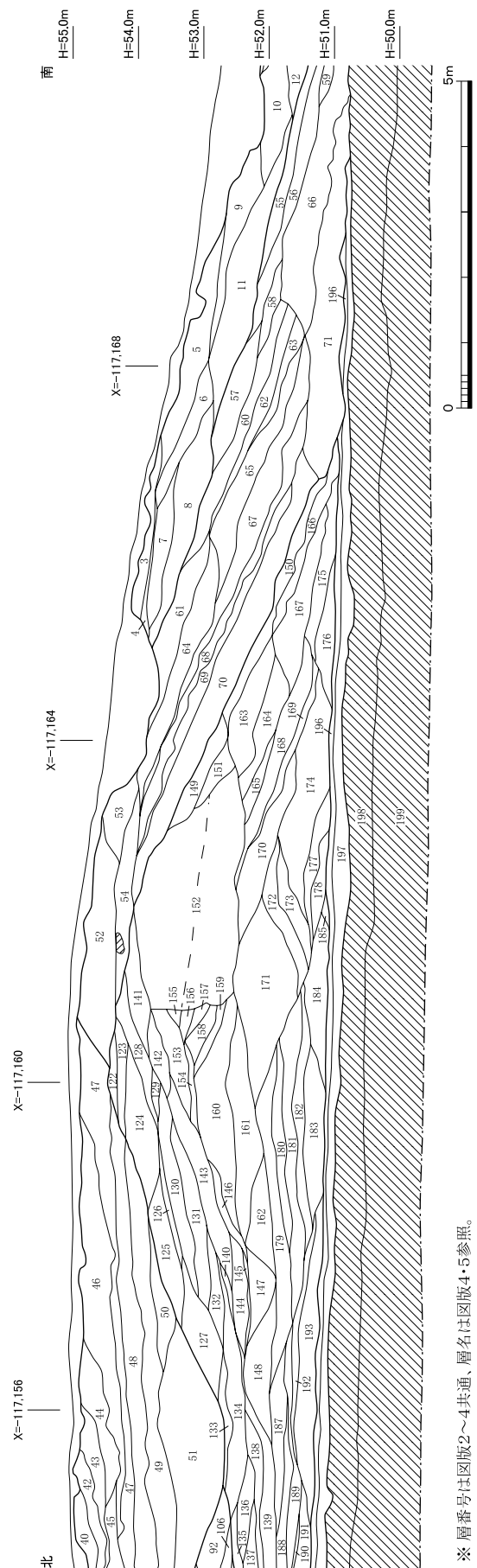


調査区断面オルソ画像・断面図2 (1 : 100)

※ 断面の位置は図版1参照。X座標は上部(調査区南東側)の数値。現代冊は除外。

2区

調査区断面図 (1 : 100)



※ 層番号は図版2~4共通、層名は図版4・5参照。

※ 断面の位置は図版1参照。X座標は上部(調査区南東側)の敷直。現代柵は除外。

調査区断面オルソ画像 (1 : 100)

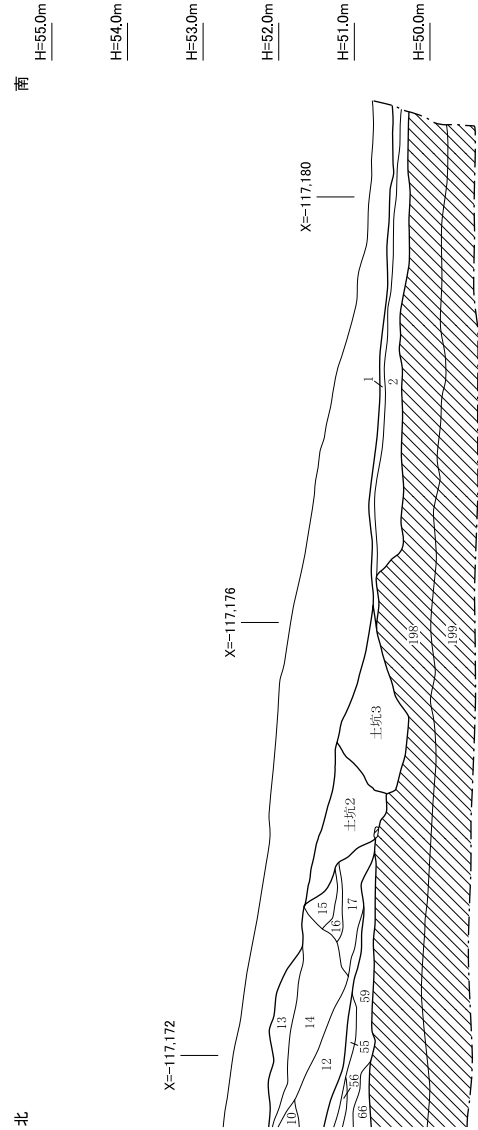


調査区断面オルソ画像・断面図3 (1 : 100)

- 整地層A
- 1 7.5YR4/4褐色粗砂～細砂 φ0.5cmの礫少量を含む 固く締まる
 - 2 7.5YR3/4暗褐色粗砂～細砂 φ8cmの礫含む やや締まる
 - 3 10YR4/4褐色中砂～細砂 φ0.5～1cmの礫少量含む 固く締まる
 - 4 10YR6/4にぶい黄褐色細砂～シルト φ0.5～2cmの礫少量含む 固く締まる
 - 5 10YR4/6褐色中砂～細砂 φ1～6cmの礫中量含む 締まり無し
 - 6 10YR4/4褐色粗砂～細砂に10YR6/6明黄褐色粘質シルトがブロック状に少量混じる φ0.5～1cmの礫少量含む やや締まる
 - 7 7.5YR5/6明褐色中砂～シルト φ0.5～2cmの礫中量含む やや締まる
 - 8 7.5YR5/8明褐色粗砂～細砂 φ1～3cmの礫中量含む 締まり無し
 - 9 10YR5/8黄褐色中砂～シルト φ0.5～4cmの礫少量含む やや締まる
 - 10 10YR5/4にぶい黄褐色粗砂～細砂(粘質) φ1～5cmの礫少量含む やや締まる
 - 11 10YR4/4褐色粗砂～中砂に10YR4/2灰黄褐色中砂～細砂がまだらに混じる φ0.5～2cmの礫少量含む やや締まる
 - 12 10YR5/4にぶい黄褐色粗砂～中砂 φ0.5～2cmの礫少量含む 締まり無し
 - 13 10YR4/3にぶい黄褐色粗砂～細砂 やや粘質 φ0.5～2cmの礫少量含む 締まり無し
 - 14 10YR4/4褐色粗砂に10YR4/6褐色粗砂～細砂が中量混じる φ0.5～4cmの礫中量含む やや締まる
 - 15 10YR4/6褐色粗砂～シルト φ0.5～5cmの礫中量含む 締まり無し
 - 16 10YR4/4褐色細砂と10YR4/6褐色中砂が混じる φ0.5～1cmの礫少量含む 締まり無し
 - 17 10YR5/6黄褐色粗砂～細砂 φ0.5～3cmの礫少量含む やや締まる
 - 18 10YR6/3にぶい黄褐色粗砂～細砂 φ0.5～1cmの礫少量含む 固く締まる
 - 19 10YR6/4にぶい黄褐色粗砂～中砂 φ0.5～2cmの礫少量含む やや締まる
 - 20 10YR6/6明黄褐色粗砂～細砂 φ0.5～1cmの礫少量含む やや締まる
 - 21 10YR7/6明黄褐色中砂～シルト φ5cmの礫含む やや締まる
 - 22 7.5YR5/6明褐色粗砂～細砂 φ0.5～1cmの礫少量含む やや締まる
 - 23 10YR6/4にぶい黄褐色粗砂～中砂 φ0.5～3cmの礫少量含む 締まり無し
 - 24 7.5YR8/6橙色粗砂～シルト φ0.5～1cmの礫少量含む やや締まる
 - 25 10YR6/4にぶい黄褐色粗砂～シルト φ0.5～1cmの礫少量含む 固く締まる
 - 26 7.5YR5/8明褐色粗砂～細砂 やや締まる
 - 27 10YR6/4にぶい黄褐色中砂～シルト 固く締まる
 - 28 10YR6/6明黄褐色細砂～シルトと7.5YR5/4にぶい褐色細砂～シルトがまだらに混じる φ0.5～1cmの礫少量含む 固く締まる
 - 29 10YR7/8黄褐色シルト やや締まる
 - 30 10YR7/4にぶい黄褐色シルト やや締まる
 - 31 10YR7/6明黄褐色細砂～シルト やや締まる
 - 32 7.5YR4/6褐色粗砂～シルト φ1～3cmの礫少量含む 締まり無し
 - 33 7.5YR5/8明褐色粗砂～細砂 φ1～3cmの礫少量含む 締まり無し
 - 34 7.5YR4/6褐色粗砂～シルト φ1～3cmの礫少量含む 締まり無し
 - 35 10YR6/8明黄褐色シルト やや締まる
 - 36 7.5YR4/6褐色粗砂～シルト φ3cmの礫含む やや締まる
 - 37 7.5YR8/8橙色細砂～シルト φ0.5～1cmの礫少量含む やや締まる
 - 38 7.5YR4/6褐色中砂～シルト φ5cmの礫含む やや締まる
 - 39 7.5YR5/6明褐色粗砂～細砂 φ1～5cmの礫含む やや締まる
 - 40 7.5YR5/8明褐色粗砂～シルト φ0.5～1cmの礫少量含む 締まり無し
 - 41 10YR6/8明黄褐色粗砂～シルトに7.5YR5/4にぶい褐色細砂～シルトがまだらに混じる φ0.5～10cmの礫少量含む 締まり無し
 - 42 10YR6/4にぶい黄褐色粗砂～細砂 φ0.5cmの礫少量含む 固く締まる
 - 43 7.5YR5/6明褐色シルトに10YR6/4にぶい黄褐色中砂～シルトがまだらに中量混じる φ0.5～1cmの礫少量含む 固く締まる
 - 44 7.5YR4/6褐色中砂～シルト φ0.5～3cmの礫少量含む 締まり無し

- 構築単位c
- 26 7.5YR5/8明褐色粗砂～細砂 やや締まる
 - 27 10YR6/4にぶい黄褐色中砂～シルト 固く締まる
 - 28 10YR6/6明黄褐色細砂～シルトと7.5YR5/4にぶい褐色細砂～シルトがまだらに混じる φ0.5～1cmの礫少量含む 固く締まる
 - 29 10YR7/8黄褐色シルト やや締まる
 - 30 10YR7/4にぶい黄褐色シルト やや締まる
 - 31 10YR7/6明黄褐色細砂～シルト やや締まる
 - 32 7.5YR4/6褐色粗砂～シルト φ1～3cmの礫少量含む 締まり無し
 - 33 7.5YR5/8明褐色粗砂～細砂 φ1～3cmの礫少量含む 締まり無し
 - 34 7.5YR4/6褐色粗砂～シルト φ1～3cmの礫少量含む 締まり無し
 - 35 10YR6/8明黄褐色シルト やや締まる
 - 36 7.5YR4/6褐色粗砂～シルト φ3cmの礫含む やや締まる
 - 37 7.5YR8/8橙色細砂～シルト φ0.5～1cmの礫少量含む やや締まる
 - 38 7.5YR4/6褐色中砂～シルト φ5cmの礫含む やや締まる
 - 39 7.5YR5/6明褐色粗砂～細砂 φ1～5cmの礫含む やや締まる
 - 40 7.5YR5/8明褐色粗砂～シルト φ0.5～1cmの礫少量含む 締まり無し
 - 41 10YR6/8明黄褐色粗砂～シルトに7.5YR5/4にぶい褐色細砂～シルトがまだらに混じる φ0.5～10cmの礫少量含む 締まり無し
 - 42 10YR6/4にぶい黄褐色粗砂～細砂 φ0.5cmの礫少量含む 固く締まる
 - 43 7.5YR5/6明褐色シルトに10YR6/4にぶい黄褐色中砂～シルトがまだらに中量混じる φ0.5～1cmの礫少量含む 固く締まる
 - 44 7.5YR4/6褐色中砂～シルト φ0.5～3cmの礫少量含む 締まり無し

調査区断面図 (1 : 100)



※ 層番号は図版2～4共通、層名は図版4・5参照。

調査区断面層名 (図版2～4に対応)

45	7.5YR5/4にぶい、褐色細砂～シルトに10YR6/4にぶい、黄褐色細砂～シルトと10YR7/2にぶい、黄褐色シルトが層状に重なる。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
46	7.5YR7/1明褐色粘質シルトに5Y7/1粘質土が少量含まれ、黄褐色シルトが層状に重なる。φ0.1～1cmの礫少量含む。固く締まる
47	10YR6/8明褐色粘質シルト。締まり無し
48	10YR6/1明褐色粘質シルトに7.5Y7/1粘質土が少量含まれ、黄褐色シルトが層状に重なる。φ0.1～1cmの礫少量含む。固く締まる
49	7.5YR4/4褐色細砂～シルト。φ0.5～3cmの礫少量含む。固く締まる
50	7.5YR4/4褐色細砂～シルト。φ1～2cmの礫少量含む。固く締まる
51	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ0.5～5cmの礫少量含む。固く締まる
52	10YR4/4褐色細砂～シルト。φ0.5～5cmの礫少量含む。固く締まる
53	10YR4/4褐色細砂～シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
54	10YR5/6明褐色粘質シルト。φ20～40cmの礫少量含む。固く締まる
55	10YR4/4褐色細砂～中砂。φ1～6cmの礫少量含む。固く締まる
56	10YR7/6明褐色粘質シルト。φ1～5cmの礫少量含む。固く締まる
57	10YR5/4にぶい、黄褐色細砂～シルト。φ1～3cmの礫少量含む。固く締まる
58	10YR6/6明褐色粘質シルト。φ0.5～5cmの礫少量含む。固く締まる
59	2.5Y7/3黄褐色細砂に10YR8/6明褐色粘質シルトが中量混入。固く締まる
60	7.5YR6/8褐色細砂。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
61	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ0.5～3cmの礫少量含む。固く締まる
62	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
63	10YR5/6黄褐色粘質シルト。φ0.5～3cmの礫少量含む。固く締まる
64	10YR6/4にぶい、黄褐色細砂に10YR6/6明褐色粘質シルトが中量混入。固く締まる
65	10YR4/4褐色細砂～細砂。φ1～5cmの礫少量含む。固く締まる
66	10YR4/4褐色細砂。φ1～5cmの礫少量含む。固く締まる
67	10YR6/6明褐色粘質シルトに5Y7/2粘質土が中量混入。固く締まる
68	7.5YR4/4褐色粘質シルト。φ0.5～8cmの礫少量含む。固く締まる
69	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ0.5～5cmの礫少量含む。固く締まる
70	10YR6/8明褐色粘質シルトに7.5Y7/1明褐色粘質土が中量混入。固く締まる
71	10YR6/6明褐色粘質シルトに5Y7/2灰白色シルトが中量混入。φ1～5cmの礫少量含む。固く締まる
72	10YR5/6黄褐色粘質シルト。φ1cmの礫少量含む。固く締まる
73	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ1～2cmの礫少量含む。固く締まる
74	7.5YR5/8明褐色粘質シルト。φ0.5～2cmの礫少量含む。固く締まる
75	7.5YR6/6明褐色粘質シルト。φ1～8cmの礫少量含む。固く締まる
76	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
77	5YR4/4にぶい、赤褐色シルト。固く締まる
78	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1～3cmの礫少量含む。固く締まる
79	7.5YR5/8明褐色粘質シルト。φ0.5～5cmの礫少量含む。固く締まる
80	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ1～3cmの礫少量含む。固く締まる
81	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ1～8cmの礫少量含む。固く締まる
82	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1～5cmの礫少量含む。固く締まる
83	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
84	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ0.1～5cmの礫少量含む。固く締まる
85	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1～5cmの礫少量含む。固く締まる
86	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1～2cmの礫少量含む。固く締まる
87	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1～8cmの礫少量含む。固く締まる
88	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1～8cmの礫少量含む。固く締まる
89	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ1～5cmの礫少量含む。固く締まる
90	5YR4/6赤褐色粘質シルト。φ5cmの礫少量含む。固く締まる
91	7.5YR6/6褐色粘質シルト。φ1～8cmの礫少量含む。固く締まる

150	7.5YR5/6明褐色細砂～粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
151	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ0.5～2cmの礫少量含む。固く締まる
152	10YR4/4褐色粘質シルトに10YR5/4にぶい、黄褐色細砂がブロック状に少量混入。φ0.5～6cmの礫少量含む。固く締まる
153	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
154	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
155	7.5YR3/4暗褐色粘質シルト。固く締まる
156	7.5YR5/8明褐色粘質シルトに10YR4/2灰黄褐色シルトがブロック状に混入。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
157	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
158	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
159	7.5YR3/4暗褐色粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
160	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1～10cmの礫少量含む。固く締まる
161	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ1～3cmの礫少量含む。固く締まる
162	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1～4cmの礫少量含む。固く締まる
163	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ1～6cmの礫少量含む。固く締まる
164	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1～4cmの礫少量含む。固く締まる
165	10YR6/6明褐色粘質シルト。φ1～3cmの礫少量含む。固く締まる
166	7.5YR3/4暗褐色粘質シルトに10YR5/4にぶい、黄褐色中砂～粘質シルトがブロック状に少量混入。φ1～6cmの礫少量含む。固く締まる
167	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1～6cmの礫少量含む。固く締まる
168	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ1～2cmの礫少量含む。固く締まる
169	10YR5/4にぶい、黄褐色粘質シルトに7.5YR4/6褐色シルトが中量混入。φ0.5～7cmの礫少量含む。固く締まる
170	5YR4/6赤褐色粘質シルト。φ0.5～6cmの礫少量含む。固く締まる
171	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
172	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
173	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ0.5～2cmの礫少量含む。固く締まる
174	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ0.5～5cmの礫少量含む。固く締まる
175	7.5YR3/4暗褐色粘質シルト。固く締まる
176	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1～2cmの礫少量含む。固く締まる
177	7.5YR4/6褐色粘質シルト。固く締まる
178	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。固く締まる
179	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
180	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
181	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ0.5～1cmの礫少量含む。固く締まる
182	7.5YR3/4暗褐色粘質シルト。固く締まる
183	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1～4cmの礫少量含む。固く締まる
184	7.5YR6/8褐色粘質シルト。φ1～3cmの礫少量含む。固く締まる
185	10YR6/4にぶい、黄褐色粘質シルト。固く締まる
186	10YR6/4にぶい、黄褐色粘質シルト。固く締まる
187	10YR3/4暗褐色粘質シルト。固く締まる
188	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1cmの礫少量含む。固く締まる
189	7.5YR4/6褐色粘質シルト。固く締まる
190	10YR6/4にぶい、黄褐色粘質シルト。固く締まる
191	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ2cmの礫少量含む。固く締まる
192	10YR5/3にぶい、褐色粘質シルト。固く締まる
193	10YR3/4暗褐色粘質シルト。固く締まる
194	5YR4/6赤褐色粘質シルト。φ1cmの礫少量含む。固く締まる
195	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。φ1～2cmの礫少量含む。固く締まる
196	10YR6/4にぶい、黄褐色粘質シルト。固く締まる
197	7.5YR4/6褐色粘質シルト。固く締まる
198	7.5YR4/6褐色粘質シルト。φ0.5～2cmの礫少量含む。固く締まる
199	7.5YR5/6明褐色粘質シルト。固く締まる
200	7.5YR6/8褐色粘質シルト。φ0.1～5cmの礫少量含む。固く締まる
201	7.5YR5/8明褐色粘質シルト～粘質土。φ2～5cmの礫少量含む。固く締まる

構築単位b
構築単位a
構築単位a
構築単位b
構築単位a
構築単位b

構築単位a
構築単位b
構築単位a
構築単位b
構築単位a
構築単位b

構築単位a
構築単位b
構築単位a
構築単位b
構築単位a
構築単位b

構築単位a
構築単位b
構築単位a
構築単位b
構築単位a
構築単位b

構築単位a
構築単位b
構築単位a
構築単位b
構築単位a
構築単位b

構築単位a
構築単位b
構築単位a
構築単位b
構築単位a
構築単位b



1 1区全景（北から）



2 2区全景（南から）



3 2区全景（南西から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	ふしみじょうあと							
書名	伏見城跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2017-3							
編著者名	中谷正和							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2017年9月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふしみじょうあと 伏見城跡	きょうとしふしみく 京都市伏見区 ももやまちょうまさむね 桃山町正宗 15の3	26100	1172	34度 56分 38秒	135度 46分 23秒	2017年6月 1日～2017 年6月28日	250㎡	JR奈良線 複線化工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
伏見城跡	平城跡	安土桃山時代	土塁	瓦類		伏見城惣構の北辺 土塁の断面構造を 明らかにした。		
		江戸時代	土坑	施釉陶器、土製品				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017-3

伏見城跡

発行日 2017年9月29日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961